



タイポグラフィーの明日が見える

TYPO

文字同士が近づきすぎると文字の形が生かせなくなる

A-Bの間隔を揃える

余白があるので細い文字で

「Y」の右端に揃える

左右の余白を揃える

A

タイポグラフィーの明日が見える

B

C-Dの字間を揃える

字間を詰める

スペースをとってセリフを見せる

「o」のセンターに

2008/10/08-2008/11/08  
TOKYO DESIGN MUSEUM2008/10/08-2008/11/08  
TOKYO DESIGN

シャープな線が密集してしまっているので一方の文字をグレーにすることでメリハリをつける

## タイトルを大きくして、セリフの形を美しく見せる

## 小さくても目立つ工夫

① 「TYPO」と「EXPO」では、何の「EXPO」かを示す「TYPO」のほうがより重要だと推測できる。そこで、この「TYPO」をできるだけ大きく表示したい。しかし、それによって「EXPO」が目立たなくなりすぎては困る。これを解決するために、ここでは、「TYPO」を横幅いっぱい大きく配置した上で、「O」のなかに「EXPO」を配置するという大胆な配置に挑戦している。Bodoniという書体は歴史のある書体だが、セリフ部分に直線が多く形状がシャープなので、大胆なデザインにも違和感がない。

② セリフはセリフ書体の特徴を表すきわめて重要な部分なので、セリフ書体の字体の美しさが映えるように、セリフのまわりに適度な余白を作る。

③ 文字が接しない程度に字間を詰めて、緊張感を持たせる。各文字の文字間隔が均等に感じられるように調整する。

④ シャープな形の文字を狭い領域に配置すると、文字が読みにくくなってしまふ。一方をグレーにすることで、メリハリが生まれ、共存することができるようになる。

今回、タイトルはセリフ体と決まっているので、太い書体を使ってもそれほど迫力がでるといわけではない。そこで、文字をできるだけ大きく使って、文字の美しさを活かしたいというところからデザインを始めた。タイトルを大きくすると、何かを大きくすれば、別の何か小さくなります。ここでは小さくても目立つにはどうすればいいかというところが次の課題です。そこで、「TYPO」の「O」のなかに「EXPO」を入れるとい

うアイデアに行き着きました。このように、デザインというのは、一つひとつ課題を解決していくことでもあります。

## 文字の間隔を精密に整える

文字を美しく見せるためには、文字と文字の間隔（文字詰め）にこだわりたいものです。文字が接してしまつては、形がきれいに見えませんが、中途半端に間隔が開いてしまうとデザインに緊張感がなくなつてしまいます。この両者のバランスをとって、程よい間隔にすることが重要です。古くから言われ

ている欧文の文字間隔の基本では、縦のラインの間隔が等しく感じられるようにすることが推奨されています。しかし、現代のデザインではそれよりは詰め気味にするもののほうが多いようです。あるいは、逆に極端に文字間隔を開けるデザインもよく見かけます。基本は基本として覚えておくことが必要ですが、さらに自分なりの美意識を磨くようにしましょう。こういった作業は、何度も繰り返し慣れることが重要です。一番いけないのは、判断しないこと。文字の間隔などが常に「気になる」ように、意識することが大切です★5。

## ★5 文字間隔を常に意識する

普段、さまざまなデザインを見る際に、字間に注目して見ること、デザインカのアップに役立つ。